

卒業式式辞 2025年3月13日

恵泉女学園大学 学長 大日向雅美

式辞タイトル：「愛の泉と湧きいでし」

皆様 学部のご卒業、大学院のご修了、おめでとうございます。  
ご家族・保証人の皆様のお慶びもいかばかりかと、心からお祝いを申し上げます。

さて、本日の式辞タイトル「愛の泉と湧きいでし」は恵泉女学園の校歌の第一節に刻まれている言葉ですが、この言葉を皆様の栄えある今日の日に贈らせていただくのは、ほかならぬ皆様自身の言葉だからです。

本学での学びを振り返る生涯就業力「STEP8」のレポート「わたしの道」に、一人の方が「恵泉女学園大学の学びは“生命の源から湧きあがる恵みのたまものであせたい”との願いから与えられたものだった」記しておられました。  
そして、表現こそ多少の相違はありますが、恵泉での日々を振りかえり、これから進む道を思う皆様の多くが、同じ思いを綴っていらっしゃいました。

今から100年近く前、女性のための真の学び舎の必要性を願って恵泉女学園を創立された河井道先生、そして、その志を長くにわたって守り続けていらした先輩方が、皆様のこの言葉、すなわち恵泉での日々と学びが「愛の泉のごとく湧きいでし恵み」の如くであったと胸に刻んでくださっていることをお聞きになれば、どれほどお慶びになられるかと思えます。

皆様がこの多摩キャンパスに入学されたときは、コロナ禍発出から2年目でした。高校生活をはじめとして入学前から未曾有の異変に日常を阻害されてきた皆様でしたが、大学・大学院での学びもまた、その終焉が定かに見えない中でのスタートでした。先の見えない不安にどんなにか心が折れる時を重ねていらしたことから思えます。

しかし、そうした数々の不安にもけっしてくじけることのない姿を皆様は見せてくださいました。

オンラインと対面とのハイブリッド形式での講義に、それぞれにご自分らしい対処の仕方で臨み、かつ、依然として制約が続く環境下でも、国内外のさまざまな活動をあきらめることなく、始動の時をじっくりと待ちながら、友人や周囲の方々との絆をたしかにすることに努めておられました。

どんな環境下にあっても、ご自分を見失うことなく、周囲の方々を大切にしながら、しなやかに強靱に生きる力の育成を願った、まさに「生涯就業力」を体現しようと努めてくださっていることに、私たち教職員はどれほど励まされたことかしれません。

皆様が直面された未曾有の出来事は、コロナ禍だけではありません。

大学の募集停止の決定は、皆様が大学での2年間の学びを終えようとしていた時でした。コロナ禍をはるかに超えるショックをお与えたことと思いますが、その時、皆様の多くが私たち教職員に届けてくださった言葉を忘れることができません。

- ・こんなこと、めったに経験できることではない。  
だから、残された時間で精一杯いろいろなことをしたいです “
- ・募集停止の前に入学できてラッキーだった。恵泉の学びを全力で吸収します。  
恵泉を盛り上げていきます “
- ・1年生には後輩ができなくなるから、その分、私たちがいっぱい愛情を注ぎます！

思いがけない事態に遭遇しても、だれを責めることなく、ご自分ができることを真摯にみつめ、他者のために力を尽くそうとしてくださいました。この多摩キャンパスに皆様のような学生を与えていただいている “有難さ “に感謝しありませんでした。今思い出しても、胸が熱くなります。

皆様がこのときの言葉を確かに実践へと移してくださったことは、その後の恵泉祭でさらに痛感いたしました。

恵泉祭のテーマは学生の皆様が考案されるものです。2022年は「つながる」、2023年は「想う」、そして、2024年は「輝く」でした。人と人の「つながり」の大切さをかみしめ、卒業生や先輩方を「想う」ことで、しっかり前を見て「わたしの道」を歩もうとされた皆様が、必ずや自分らしく「輝く」という決意を表明してくださいました。

先の見えないコロナ禍に置かれていたとき、こうした未曾有の変化は、コロナ禍終焉後も続き、むしろ、そうした変化が日常となる「ニューノーマル時代」の到来が伝えられていたことをご記憶かと存じます。

たしかに、コロナ禍がほぼ終焉に近づいた安堵感に浸る閑もなく、昨年は元旦の日に能登半島が大地震に見舞われ、日本中が震撼させられました。その後も各地に自然災害が続き、世界に目を転じれば、いくつもの国と地域で、戦争、紛争、虐殺、飢餓が繰り広げられています。自然現象を前にした人間の無力さ、その人間どうしが争い、命が無差別に奪われていく惨状に、胸つぶれる思いです。

河井道先生が第一次世界大戦後の世界の惨状を目の当たりして、この地球上に真の世界平和を築く意思を固められ、それは女性の力の育成なくしてはなし得ないと、女子教育に着手された当時の決意を今一度、心に刻みたいと思います。

これからニューノーマル時代の社会に羽ばたいていく皆様ですが、恵泉女学園大学で修得された「生涯就業力」を存分に発揮し、河井先生の平和と女性活躍への祈りと願いの実現に尽くしてくださることを信じております。

このキャンパスはいずれなくなります。私たち教職員は皆様のご活躍を信じ、お幸せをいつまでも変わりなく祈り続けていることを最後にお伝えさせていただきます。これからの日々、どうか皆様らしくご自分の道を歩み、幸せな人生を切り開いてくださることを心から願って、式辞とさせていただきます。